

## 研修報告書 No.22

研修先： 嶺北中央病院

本山町立国民健康保険嶺北中央病院での 4 週間の地域医療研修を終えましたので、報告します。

研修前に抱いていた高知県のイメージは、東西に長いということでした。実際、初日に連れて行ってもらった桂浜からは東端である室戸岬の方を眺めることができ、距離の遠さを実感しました。高知県の県庁所在地である高知市は高知県の中央南部に位置しており、高知大学附属病院はその隣市である南国市にあります。高知県全体の人口は 652,459 人であり、高知市 311,802 人、南国市 45,912 人であることから、実に高知県の半数以上の人口が中心部に集まっています。高次医療機関も中心部に集まっており、速やかに搬送するために高知県救急医療・広域災害情報システム、『こうち医療ネット』が運用されています。デバイスを通じて県全体の救急車の位置をリアルタイムで把握でき、ドクターヘリの運航可否などを知ることができました。研修期間中に中心部の病院に搬送するケースは複数回あり、同乗したこともありました。嶺北中央病院は、高知市より北側におよそ 40km の場所に位置し、中心部まで車で約 60 分の距離となっています。高速道路を利用した移動となるため、同乗には少し緊張しました。もちろんこちらから搬送する一方ではなく、病状が落ち着くと転院搬送されてきます。病院間の連携をみて、病院毎の役割について考える機会となりました。

研修中には、各部署で長年勤めている方々からこれまでの歴史について話を伺うことができました。例えば、現在嶺北中央病院では維持透析を行っているのですが、行っていなかった時代は中心部までの通院が必要な状況であったということを知りました。また、以前はお産を行っており病棟に分娩室もありますが、現在は行っていないこと、高知県全体としてお産ができる場所が限られている現状を知りました。実際 1998 年には高知県内に 35 の分娩施設がありましたが、2025 年には 9 施設に減少しています。

嶺北中央病院は嶺北地域で唯一の公立病院として救急車の受け入れや検診業務など、幅広い業務を担っています。病床数は 99 床（一般 55 床、療養 44 床）、地下 1 階から地上 4 階の計 5 階建ての建物であり、1 日で大体の構造を把握できる規模でした。常勤としては内科・外科・整形外科です。腰痛や関節痛、廃用症候群に対するリハビリなど、整形外科が高齢者の多い地域の病院で活躍する場面は多くみられました。これまであまり意識してこなかった、地域における整形外科の重要性を感じました。

研修は、外来見学・救急対応・病棟対応・診療所見学・往診同行・医療スタッフ見学といった内容でした。私にとって特に重要な経験となったのは、診療所見学です。嶺北中央病院からは、いくつかの診療所に定期で医師を派遣しています。診療所ごとに心電図や超音波検査の有無や置いてある薬が異なっていること、定期外来では薬を事前に準備して持ってい

く必要があることなど、実情を知ることができました。通所のデイケアは、利用者の平均年齢が 86 歳でした。レクレーションに参加しましたが、普段の生活が想像できません。送迎に同行しましたが狭い道を通って山奥の家に着くと、でこぼこな道を慣れた様子で手押し車を使って玄関まで向かいます。施設でみるより元気にみえました。

以上が地域医療研修として嶺北中央病院で研修を行った報告となりますが、研修を通じて抽象的であった地域医療が具体的になったように思います。高次機能病院までの距離、常勤医の数、常勤・非常勤で存在する診療科、公共交通機関でのアクセスの良さなど地域医療といえども条件は様々です。地域医療と一括りに考えるのではなく、それぞれの病院が抱える課題を具体的に考えることが大切だと思いました。

最後になりますが、本研修でお世話になりました佐野院長をはじめとする嶺北中央病院の皆様心より感謝申し上げます。